



SNSで問題行動の画像を 公開することについて考える

岡本 弘之

<抄 録>

昨年夏に頻発した若者による「問題行動の画像投稿」問題について生徒に考えさせ、その中で不適切な投稿を起さず、かつ賢く情報発信できるメディアリテラシーを育成することをめざす情報科の授業実践を紹介する。

<キーワード>

SNS 情報モラル メディアリテラシー 情報科

1 はじめに

2013年7月の「コンビニエンスストアの冷蔵庫に入った画像を投稿した」事件以降、問題行動を写した画像をSNSに投稿し、問題化する事象が多発している。この背景にはスマートフォンなど、誰でもどこでも簡単に情報発信できる環境が普及する一方、SNSや情報発信の責任についての知識が不足していることがあげられる。

この現状をふまえ、勤務する高校の情報科の授業において「問題行動の画像投稿」の事例を取り上げ、その原因や背景を考えるを通じ「情報発信者」としてのメディアリテラシー育成を目指した授業を企画・実践した。

2 授業の実践

(1) 授業のねらい

「問題行動の画像投稿」をおこさず、賢く情報発信ができる力を育てるために、授業は実際の事例を題材に、以下の目標で企画し、授業を展開した。

- ① 問題行動の画像投稿の背景を考える
- ② 事例から情報発信の責任を知る
- ③ 個人情報が出れにくい情報発信を考える
- ④ 自分の情報発信について考える

授業の進め方としては一方的に教え込むのではなく、付箋・KJ法を使った「考える」「話し合う」活動を多く取り入れ、生徒の話し合い結果をもとに、授業者が知識を補っていく形とした。

(2) 授業の展開

①問題行動の画像投稿の背景を考える

問題行動の画像投稿」の実際の事件を2つ紹介。これらが起こる原因・背景について、4人班で付箋を使って話し合い、KJ法で整理し、1分程度で全体に発表させた。

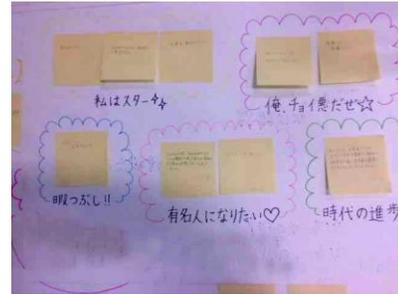


図1 生徒が原因をKJ法で整理した画用紙

②事例から情報発信の責任を考える

これら問題行動の画像投稿の結果、例えばお店はどのような影響（被害、損害など）を受け、投稿した人自身もどのような責任（損害賠償、個人情報がさらされるなど）について、実際の事例のその後を説明し、情報発信の影響・責任について知識を与えた。

③個人情報が出れにくい情報発信を考える

「バカッター」など「問題行動の画像」を探し保存・公開しているサイトや、インターネット上の「特定班」とよばれる人たちが、これら「問題行動の画像」を投稿した人物の個人情報を特定し、掲示板などにさらしている構造・現状を説明した。（もちろん特定班の行為についても違法性が高いことも最後に補足しています）

匿名の投稿から個人情報がどのように特定されるのかについて考えさせ、話し合い、発表させた。この発表をもとに「情報発信をする際に個人情報が特定されにくくするにはどうすればいいか」について知識をまとめた。

次に自分のIPアドレスを調べる実習から、捜査機関はIPアドレスから個人が特定可能ということを確認させ情報発信の責任を考えさせたり、自分の名前を検索エンジンで確認させる実習を行い、知らない間に自分の個人情報がヒットしないかについても確認させた。

④自分の情報発信を考える

情報発信の注意事項の知識の整理として、ここまでの話し合いで「インターネットの特性（誰でも見る事ができる、消すことができない）」と「発信に伴う責任」をワークシートに記入させた。そして注意事項を知った上で、より有益な情報発信について考えさせるために「どのような情報をSNS・ブログに載せればいいのか」という話し合いをさせ、KJ法で整理、全体に発表させた。

3 生徒の話し合い結果より

(1) 問題行動の画像投稿の背景について

「不適切な投稿」の原因・背景は？	
そもそもモラルの問題・・・	情報社会ゆえに・・・
・ 目立ちたい <ul style="list-style-type: none">- 悪乗り- かっこいいと思っている- 有名になりたい- 自慢したい	・ みんなに見てほしい <ul style="list-style-type: none">- 自分のサイトを見てほしい
・ 無自覚・軽い気持ち <ul style="list-style-type: none">- 笑ってもらえらると思っていただけ- 悪いことだと思っていない- 大事になるとは思っていない	・ SNSだから <ul style="list-style-type: none">- リツイート・シェアを増やしたい- コメントを期待して- フォロワーを増やしたかった- フォロワーが見ているから
・ 好奇心 <ul style="list-style-type: none">- ふざけてやってみている- おもしろいから- 暇つぶし- ニュースに出たい	・ ネットの特性を知らない <ul style="list-style-type: none">- 広がると思っていなかった
	・ ネット環境が身近にある <ul style="list-style-type: none">- どこでも撮影投稿できる環境がある
	・ ネット環境に慣れている <ul style="list-style-type: none">- 投稿することに抵抗が少ない- 投稿慣れして感覚がマヒ

図2 生徒の意見まとめスライド1

問題行動の画像投稿の原因として、生徒の意見は「目立ちたい」「軽い気持ち」といった（インターネットとは関係がない）投稿者のモラルの問題と、「仲間内で見せようと思った」という情報発信への知識不足・「ネット環境やカメラが身近にある」という情報社会ゆえの問題の二つの要因をあげていた。

その中で納得させられたのは「反応が目に見えるSNSゆえに、起こった問題では」という意見であった。「リツイート、フォロワー、コメント、シェア、いいね」といった反応が返ってくるゆえに、投稿者は反応が期待できそうな投稿をしてしまうという意見である。

生徒たちは、話し合いで事件の原因・背景を考えさせる中で、自分たちにも同様の経験がないか振り返り、また問題行動の画像投稿をおこさないための「情報発信には慎重さが必要」「SNSでも投稿すれば拡散する可能性がある」という知識をこの実習で得ることができた。

(2) 個人情報が漏れにくい情報発信を考える

個人情報をどう特定するか？	
・ 位置情報から <ul style="list-style-type: none">- ツイート・投稿時- 写真から	・ フォロワー・友達から <ul style="list-style-type: none">- 交友関係から学校、年齢、地域の特定- 友達との会話で名前があるときも・・・- 1人が学校名を出していたら特定できる
・ 投稿された写真から <ul style="list-style-type: none">- 位置情報- よく行く場所の特定- 制服	・ 過去の投稿を遡る <ul style="list-style-type: none">- つぶやき、会話から
・ プロフィール <ul style="list-style-type: none">- あだ名、住んでいる地域- ブログのURLから- ニックネーム・IDから	・ 他のサイトも調べる <ul style="list-style-type: none">- 同じIDで他のSNSも調べる

図3 生徒の意見まとめスライド2

位置情報、画像、プロフィール、過去の投稿といった本人の情報を組み合わせると特定できるという意見と、生徒が多く指摘したのはフォロワー・友達から学校・地域・年齢が特定できるというものであった。

具体的には「コメントに○○ちゃんとおびかけがある」、「1人くらいプロフィールに学校名・地域を書いている人がいる」という例があがった。自分がいくら気をつけていても、友達やフォロワーの情報から芋づる式に個人情報が漏れてしまうという指摘である。

生徒たちは、この実習の中で単に「個人情報が特定されやすい情報が何か」を知るだけでなく、「友人のためにも個人情報を書きこまない方がよい」ということに気づくことができた。

4 まとめ

生徒の授業の振り返りから、今回の授業実践の効果は次の3つに整理できる。（「」は代表的な記述内容）

① 情報発信の責任を理解できた

「情報発信・写真を載せるリスクを知れた」

「軽く投稿せず、よく考えて投稿するべきと感じた」

② 個人情報が漏れにくい情報発信の知識を得た

「待ち合わせをつぶやいていたので気をつけたい」

「個人情報を出しすぎることは友達にも迷惑をかける」

③ 情報発信をうまく活用する方法を考えた

「知りたい情報発信し、ネットをいいものに変えていきたい」

「（他人が不快となる）批判的なことは言わない」

今回、実際に起こった「問題行動の画像投稿」の事件から考え話し合わせる授業は、背景を考えることから自分の行動を振り返り、また新たな知識を得ることができ、かつどう自分が活用していけばいいかまで実践的に学ぶことができる授業となった。

高校生の多くがSNSによる情報発信を行っている現状の中、「問題行動の画像投稿を行う生徒を作らない」という消極的な目標だけでなく、将来の「情報社会を生きる大人」を育てるためとして「情報発信の注意点を知り、賢く情報発信を行える生徒」を育成する授業実践は重要である。今後もそのような生徒を育てる授業を情報科教員として考え、実践していきたい。（筆者Web

「情報科の授業アイデア」<http://www.okamon.jp>）

参考文献

- (1) 岡本弘之、浅井和行(2013)「『不適切な投稿』問題から考える情報発信の授業」日本教育メディア学会第20回大会発表論文集, pp. 77-78
- (2) 岡本弘之(2013)「話し合う情報モラルの授業実践」第6回全国高等学校情報教育研究会京都大会要項, pp. 48-49